

「ノン子36歳（家事手伝い）」

★★★★

2008（平成20）年12月9日鑑賞<東映試写室>

監督：熊切和嘉

坂東ノブ子（通称ノン子）／坂井真紀

マサル（若者）／星野源

宇田川（ノン子の元ダンナ）／鶴見辰吾

安川時生（テキヤのボス）／津田寛治

ノン子の父／斉木しげる

ノン子の母／宇津宮雅代

富士子（ノン子の同級生）／新田恵利

ノン子の妹／佐藤仁美

2008年・日本映画・105分

配給／ゼアリズエンタープライズ

<はじめて、熊切和嘉監督作品を>

1974年生まれ熊切和嘉監督は、大阪芸術大学の卒業制作『鬼畜大宴会』（97年）をはじめとしてかなり有名な問題提起監督らしいが、私はこれまで1度も彼の作品を観たことがなかった。他方、この映画に主演した坂井真紀は、『赤い文化住宅の初子』（07年）と『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程』（08年）の演技が強く印象に残っている女優（『シネマルーム13』214頁、『シネマルーム18』56頁参照）。熊切監督と坂井真紀は①『青春☆金属バット』（06年）での特殊メイクによる巨乳役、②『フリージア』（07年）での冒頭5分で無残に撃ち殺される役、という奇妙なコラボがあり、その延長線として本作が生まれたらしい。

そんな熊切監督の女優坂井真紀に対する想いはプレスシートの「Director's Statement」に述べられているが、そこでは「現場に入ると僕は、思う存分、ありったけの愛を込めて坂井真紀を凌辱した。」というものすごい表現があり、「結果、今までで最も大切な映画が完成した」という自信作。また熊切監督はじめての「女性映画」とのことだが、何とR-15指定だし、キャッチコピーが「最後にしたの、いつだったか？」というかなりきわどいもの。

タイトルの面白さを含め、当然私の期待度は急上昇。

<08年度「濡れ場大賞」の栄冠に！>

韓国の美人女優ソン・ヘギョが主演した『ファン・ジニ』（07年）は、彼女の凛とした美しさは認めるものの、ヌードシーンもベッドシーンも全然期待度を満たせなかったのが大きな不満。しかし、熊切監督が思いきり坂井真紀を凌辱したというだけあって、この映画のH度はかなりのもの。

キネマ旬報で「カラダが目当て」というコラムを連載している秋本鉄次氏は、キネマ旬報08年12月下旬号で「08年度濡れ場大賞」にこの映画を選んだと発表した。主演女優賞は『接吻』の小池栄子に内定していたため現在迷っているらしいが、濡れ場大賞は『ノン子36歳（家事手伝い）』の坂井真紀で決定！『人のセックスを笑うな』（07年）での永作博美の濡れ場と比べて大人と子どもほどの差がある、との評価には私も全く同感。

本作の濡れ場シーンは2つあるが、秋本鉄次氏が絶賛しているのは、仕事上のネタで復縁を迫りにきた、元ダンナ兼マネージャーの宇田川（鶴見辰吾）との安旅館における濡れ場。その描写ははるかに彼の筆の方がうまいから、是非それを鑑賞してほしいが、中谷美紀や永作博美と同じように王道を歩むこともできる、美人で演技力もある坂井真紀がこんな独自路線を一人堂々と歩んでいることに拍手！

<熊切監督の女性観と女性鑑識眼に感心>

はじめての女性映画だが、熊切監督の女性観と女性鑑識眼は相当しっかりしているようだ。坂井真紀演じる通称ノン子こと坂東ノブ子は東京で芸能人をやってみたが鳴かず飛ばず。マネージャーと結婚して即離婚。三十路半ば、バツイチ出戻りという設定だ。

このキャラを映画冒頭に見事に演出するのが、同じくバツイチの同級生富士子が経営するバーでの女同士の本音いっばいの酒とおしゃべり。富士子を演ずる新田恵利は元おニヤン子クラブの一員だから華やかな舞台を経験したことがあったはずだが、彼女が扮する富士子は今や場末のバーで女一人生きていくだけのさびしい女。そんな富士子と、人生の目標を失い、倦怠感いっばいのノブ子との会話は、男の目にはよくぞここまでとげとげしくしゃべれるものだと感心するもの。ちなみにこの富士子は、ノブ子のグチの聞き役としてだけではなく、映画後半にはある大きな役割を果たすので、お見逃しなく。

第2に、姉のノブ子とは対照的に幸せな結婚をし一人娘のいる妹（佐藤仁美）が里帰りしてきた時の、姉妹のとげとげしい会話も面白い。ノブ子の実家は神社だから経済的にはかなり恵まれているようだが、父親（斉木しげる）も母親（宇津宮雅代）も、出戻り娘に対してはとにかく腫れ物にさわらぬような感じで接しているところが面白い。しかし、たまに実家に戻ってくるだけの妹には姉に対する心遣いなど全くないから、ノブ子の態度をみて「このヒト、終わってる」ときついひとことを・・・。

食事の世話など、過剰なほど優しく接している母親のノブ子に対する態度を含めて、ここまでギスギスした女同士の関係をうまく描いた熊切監督の女性観と女性鑑識眼に感心。

<年下クンはそれなりに魅力的？>

ノブ子の注目すべき第2の「濡れ場」は、神社の祭りでヒヨコを売ってひとやま当てることを狙って一人場所探しにやってきた若者マサル（星野源）とのそれ。もっともこれは、その濡れ場シーンだけに着目するのではなく、見ず知らずの2人がなぜそんな関係になっていくのかをじっくり観察していかなければダメ。そして、それがこの映画のテーマ。

よく「年下クン」という言葉が使われるが、自立し経済力のある女性やバツイチで親元に寄生している女性が増えてくると、経済力もなく知恵も社会経験も自分より劣っているものの、かわいくて自分に尽くしてくれ、甘えてくれる年下クンは結構魅力的・・・？もっとも、映画冒頭からタツプリとみせつけられる、ノブ子の倦怠感いっばいの生活プリをみていると、年下クンはおろか、およそ男には完全に興味を失った三十女。私はそう思ったのだが、そう思わせるところが熊切監督の狙いで、実はノブ子とマサルの何とも不思議な関係がこの映画のメインストーリーとなることに。

<マサルのキャラをどう解釈すれば？>

今マサルが一人神社にやってきて思案しているのは、場所取りをどこにするかということ。しかし、神社の祭りの場所とりはテキヤが仕切っており、新参者は容易に進出できないはず。そんなシキタリが、ノブ子の案内によってやっと面会することができた、テキヤのボス安川時生（津田寛治）とマサルとの話し合いの結果明らかになる。つまり、安川の話はまず営業の許可をもらえということ。そして、そのうえで順番待ちをして、空いたら認めてやるという至極もったもなもの。それに対するマサルの反応は、土下座してお願いしますと情にすがりつくものだが、安川はそれには完全に拒絶反応。

ところが、ノブ子から「見込みはあると思うよ」と慰められたマサルは、ヤクザの親分はきっと義理と人情に厚いはずだから大丈夫、とワケのわからない理屈をつけて着々とその準備を進めていくことに。こんなムチャクチャな若者のやり方に私はビックリ。これでは祭りの当日、どんな騒動が起きることやら・・・。

<酒とタバコ、おみくじとヒヨコに注目！>

この映画前半のノブ子は無愛想でうっとうしい顔が特徴。そして、何をしてもおっくうでジャマくさそう。もっとも、そうかといって毎日何かやるべきことがあるわけではないから、「時生さん」に会えるようにするために付き合ってもらっていることに恐縮するマサルに対しても、「別に・・・」と無愛想。

そんなノブ子を手放すことができないのが、酒とタバコ。とりわけタバコは、間をとるのに有効な小道具として大きな役割を果たしている。全編通じて90%以上がおっくうそうな表情のノブ子だが、マサルと接する時間が多くなる中、後半には時々笑顔がみえてくる。そこで大事な役割を果たす小道具がおみくじとヒヨコだ。参拝客が結んでいったおみくじを勝手に盗み見したり、それを捨ててしまう行為は神社の娘としてもってのほかだが、自分がひいた大吉のおみくじをマサルと共に高いところに結びつけるについては、はじめて無邪気な笑顔を・・・。

さらに、お祭りで売るために届いた商品としての大量のヒヨコをみてかわいいと笑うノブ子の笑顔も素敵。ちなみに、このヒヨコに対するノブ子の笑顔が、パターンをかえてこの映画の印象的なラストシーンになるから、小道具としてのヒヨコに注目！そしてまた、そんな小道具を媒介とした、ノブ子を演ずる女優坂井真紀のすばらしい演技にも注目！

<ノブ子は再生できそうだが、マサルは・・・？>

この映画は、もうオンナも終わったし人生も終わったと感じ、実家の庇護の下で空虚な日々を送っていたノブ子が、偶然マサルと知り合い、さらに元ダンナが登場していく中、再びオンナを自覚し「もう1度人生をやり直してみよう」と思うまでのノブ子の道のりを描いたもの。しかしラスト近くに登場してくるキーワードが、「でもね、まだ終わってない」というノブ子の力強い前向きなセリフだ。しかし他方、マサルはどう？

祭りの日の場所取りも「きつと何とかなるさ」という根拠不十分な楽観論のまま、ノブ子の好意に甘える形で神社内に居つき、挙げ句の果てはノブ子お姉さんといいい仲にまでなれたマサルは、半ば有頂天。雨天順延のため滞在期間が長引いたこともこんなラッキーを生み出した要因だが、さて晴天となったお祭り当日は？

ヒヨコを入れた段ボール箱を「所定の場所」に運び込み、ワケのわからない理屈をつけて「時生さん」に頼み込んだものの、時生の答えは前と同じでダメというもの。そこで再びはじまったのがマサルの土下座だが、そんなもので時生の心が動くはずはないことは明らか。その結果、テキヤの本性丸出しとなり、ついにマサルはボコボコにされて追い出されてしまったが、この映画では、その後のマサルの行動と、さらにその後のマサルの行動に注目！ここではこれ以上ネタばらしをすることはできないので、それについては自分の目で確認してほしいが、これではちょっとマサルがかわいそう。ノブ子は再生できそうだが、さてマサルは・・・？